

令和六年度 松阪看護専門学校入学試験 国語総合問題

(問題は三枚です。解答は、別紙の解答用紙に記入してください。)

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

私たちには言語を毎日使っている。水か空気のようにあって当たり前だと思つてゐる。そのありがたみを感じるのは言語を使えなくなつたときくらいかもしれない。「言語の性質とは何か?そんなことを考へるのは言語学者というヒマ人だけだ。意味がわからなければ辞書を引け。そこに答えが書いてある」。そういう声が聞こえてきそうだ。でも生活の中でふとしたこと、「ことばとは何か」という、疑問がかすかに頭をよぎつたことがある人も多いかもしれない。

「ア」言語だけが人間の知的活動のすべてではないし、言語能力だけが認知能力のすべてではない。
「イ」人間には言語が必要なのだ。そして言語に関する謎は多く、それぞれの謎が底なしの沼のように深い。言語研究者にとって、言語はいくら登り続けても「b チョウテン」にたどり着くことができない、高い山のような存在である。

認知科学では、未解決の大きな問題がある。記号接地問題という。私たち人間は、知つていてそれのことが指す「A」を知つてゐる。「知つている」というのは、単に「c テイギ」ができるということではない。
「ウ」、「メロン」ということばを聞けば、メロン全体の色や①模様、匂い、果肉の色や②触感、味、舌触りなどさまざまな特徴を思い出すことができる。「エ」これは「メロン」を写真で見ただけではなく、食べたことがあれば、である。

しかし、实物を見たことも食べたこともない果物はどうだろう。「〇〇」という名前を教えられ、写真を見せられる。「オ」、その果物の「d ガイケン」はわかり、名前を覚えることができる。「甘酸っぱくておいしい」のような説明が書いてあれば、それも覚えることができる。しかし、〇〇の(1)ビジュアルイメージを「甘酸っぱくておいしい」という③記述とともに記憶したら、〇〇を知つたことになるだろうか?イチゴの味を知つていて、「イチゴは甘酸っぱくておいしい」と思ついたら、〇〇の味もイチゴの味と考へてしまふかもしれない。

記号接地問題は、もともとは人工知能(AI)の問題として考へられたものであつた。「〇〇」を「甘酸っぱい」「おいしい」という別の記号(ことば)と結びつけたら、AIは〇〇を「知つた」と言えるのだろうか?
この問題を「e サイシヨ」に④提唱した認知科学者スティーブン・ハルナッドは、この状態を「記号から記号へのメリーゴーランド」と言った。
「X」だけでは、いつまで経つてもことばの対象についての理解は得られない。ことばの意味を本当に理解するためには、まるごとの対象について身体的な経験を持たなければならない。ロボットならカメラを⑤搭載することができる。カメラから視覚イメージを得ることはできる。しかし私たちが対象について知つてているのは視覚イメージだけではない。触覚も、食べ物なら味覚も、対象のふるまい方や行動パターンも知つている。このような身体に根差した(接地した)「B」がないうとき、人工知能は〇〇を「知つていて」と言えるのだろうか?

しかし、記号接地問題は、人工知能の問題だけではないかもしれない。ヒトはことばを覚えるのに、身体経験が必要だろうか?ことばを使うために「C」は必要だろうか?言語はどこまで身体とつながつてゐる必要があるのだろうか?

(今井むつみ・秋田喜美『言語の本質』中央公論新社二〇二二年五月二十五日初版より)

問一 □a～□eのカタカナを漢字に改めなさい。

問二 傍線部①～⑤の読み方をひらがなで記しなさい。

問三 空欄「ア」～「オ」に入る適切なことばを次の中から選び、番号で答えなさい。ただし、「もちろん」は二箇所に入ります。

1 すると 2 しかし 3 もちろん 4 たとえば

問四 空欄「A」に入る適切な語句(漢字二字)を本文の中から抜き出し書きなさい。

問五 傍線部(1)「ビジュアルイメージ」の「ビジュアル」とはどのような意味か、次の中で正しいものを選び、番号で答えなさい。

- 1 味覚に訴えること 2 聴覚に訴えること 3 触覚に訴えること 4 視覚に訴えること

(1)

問六 空欄

X

に入る適切な表現を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 符号を別の標識で表現する 2 絵図を別の文芸で表現する 3 記号を別の記号で表現する
 4 象徴を別の映像で表現する 5 概念を別の指標で表現する

問七 空欄 B に入る適切な漢字二字の語句を本文中から抜き出し、書きなさい。

問八 空欄 C に入る適切な漢字四字の語句を本文中から抜き出し、書きなさい。

問九 この文章の内容に合わないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 私たちは水か空気のように当たり前に言語を使っている。
 2 言語研究者にとって言語についての謎は、底なし沼のように深く、なかなか解き明かせない。
 3 メロンということばを聞いて、食べたことがあれば、さまざまな特徴を思い出すことができる。
 4 本当にことばの意味を理解するためには、身体的な経験が必要となる。
 5 言語とは何か、について考える場合、言語の起源と言語習得の謎を明らかにする研究は疑問視されている。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

生物と環境との（ア）交互作用によつて成り立つた体系において、環境は一応物質または物質を代表するものというように考えられてよいであろう。だからわれわれの身体までが、その意味において環境の延長と見なされ得るわけである。（A）生物の方は、生命または精神を現す側にあるものであり、環境を生物の延長とみることはすなわち環境の生命化であり精神化でなければならぬ。（B）今まで生物と環境というよううな問題を取り扱う場合には、研究者はいつも生物の立場をとらないで環境の立場をとり、環境の物質的性質を（イ）介して生物なるものを解釈しようという態度をとる場合が多かつたのである。（C）こういう態度をとることが、生物学の研究方法として間違つてゐるといふのではない。生物の立場をとることは、どんな生物にだつて同じ程度に①その適用が許されているのではないかとして、われわれの（a）ルイスイ がきかないような体制や構造の簡単な動物や植物の生活を、環境の物質的性質でもつてはかり、これによつてそれらの生物を知ろうといふのは、確かに客観的科学的な態度として認められるであろう。けれどもこのようにしていわば環境によつて（ウ）翻訳され、環境によつて定義された生物が、はたして具体的な生物のそのままの姿を現しているといえるだろうか。環境は確かに生物がこれを自由につくつたり変えたりはできないものである。しかしそうかといつて生物はけつして環境に支配され、環境の規定するままに（b）イッサイ の自由を失つたものとはいえないものである。（D）生物の立場に立つていえば、絶えず環境に働きかけ、環境をみずからの支配下におこすとして努力しているものが生物なのである。環境のままにおし流されて行くものなら、われわれはともそこに自律性や主体性を認める必要はないのである。それならば単なる機械にすぎない。

ここにだから①を解釈する際に、われわれが注意しなければならない点が（エ）潜んでいるのである。すなわちそれが方法論として間違つたものではなくとも、それから導き出された結果として、環境が生物のすべての行動を決定するものごとく解したならば、この解釈は明らかに間違いであるといわねばならない。もつとも生物によつて環境に対する働きかけあるいは環境に対する主体性とか独立性とかいうものの相違がなければならないが、生物というものを認める以上、②環境決定論を（c）シヨウフク できないといふのは、あえて生物における進化の上下を問わずとも、当然③生物そのものの本質的性格から（d）ヨウセイ させていいことなのであると思う。

（今西錦司『生物の世界』講談社文庫より）

問一 □ a ↗ □ d のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 傍線部（ア）↗（エ）の漢字の読み方をひらがなで記しなさい。

問三 空欄 A ↗ D を補うのに最も適当な語句をそれぞれ次の語群の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 たとえば 2 したがつて 3 むしろ 4 それゆえに
 5 それにもかかわらず 6 もちろん 7 これに対しても 8 同様に

問四 空欄 ≪ ① ≪・≈ ② ≈ に入れるのに適当な語を、それぞれ本文中から選んで書きなさい。

問五 傍線部①「その」は何を指していますか。本文中のことばを十五字以内で抜き出して答えなさい。

問六 傍線部②「環境決定論」とはどんな考え方か、本文中の語句を用いて、次の説明文の（ア）・（イ）を埋めなさい。（いずれも漢字二字の熟語。）

↓（説明）：（ア）が（イ）のすべての行動を決定する、という考え方。

問七 傍線部③「生物そのものの本質的性格」を筆者はどのようにとらえていますか。その筆者のとらえている考え方を示す部分を三十七字前後で見つけ、その部分の中から最初の十字を記しなさい。

問八 この文章の筆者は、生物と相反するような性格をもつたものを、何と言っていますか、本文中のことばを抜き出して書きなさい。その場合、「自律性や主体性を認める必要はない」という記述に注意すること。

問九 この文章で筆者はどのようなことを主張していますか。次の中から最も適当なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 生物とは環境に支配され規定された存在であることを主張する。
- 2 生物とは自然環境の中で自由に育つものであることを主張する。
- 3 環境の物質的性質を介して生物を解釈することの必要性を主張する。
- 4 生物を環境から切り離して生命的に解釈することの必要性を主張する。
- 5 生物学研究において生物の立場をとることの必要性を主張する。

問題三 次の①・②の傍線部の漢字の読み方をひらがなで記しなさい。また、③・④・⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

○ ○ ○ ○ ○ この地はゆつたりと流れる北上川を望み、緩やかな①勾配となつていて。
校庭では夕方、犠牲者を②追悼して、竹灯籠がともされる。
混乱のなかで机や椅子が③リヤクダツされた。
日本は復興支援で自衛隊を④ハケンした。
○ ○ ○ ○ ○ 戦争の記憶を⑤フウカさせないためにも語り継ぐことが必要だ。